

2018年10月22日

経済レポート

グラフで見る関西経済(2018年10月)

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

【今月の景気判断】

関西経済は緩やかに持ち直している。

項目	現状(10月)	前月
1. 景気全般	緩やかに持ち直している	-
2. 生産	横ばい圏で推移している	-
3. 輸出入	輸出、輸入とも横ばい	-
4. 設備投資	増加している	-
5. 雇用	改善している	-
6. 賃金	緩やかに持ち直している	-
7. 個人消費	持ち直しの動きが見られる	-
8. 住宅投資	横ばい圏で推移している	-
9. 公共投資	横ばい圏で推移している	-

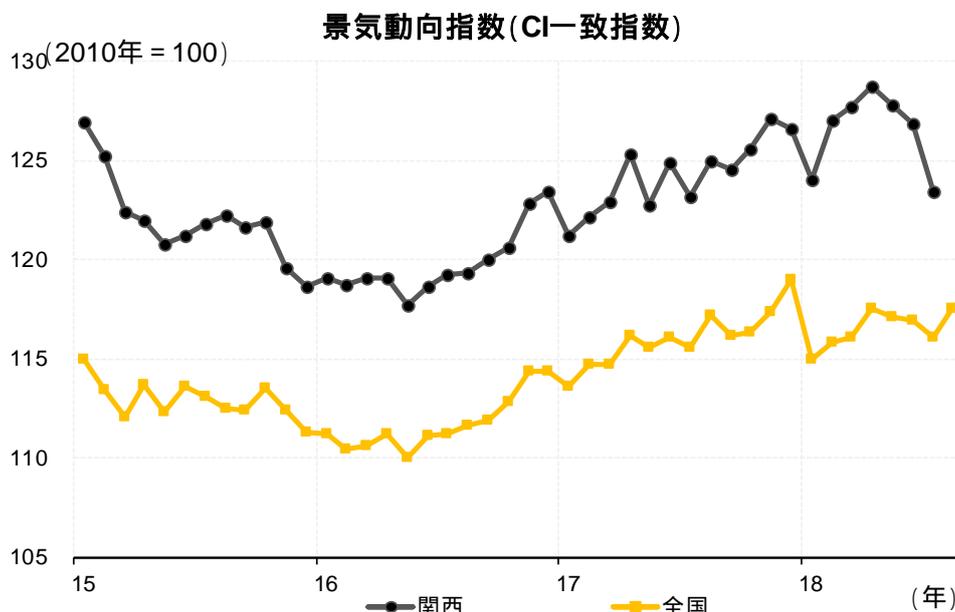
(注) 前月のコメントが現状と同じ場合は - と表記

【今月のポイント】

- ・9月の名目輸出額は台風21号被害による関空閉鎖の影響で、前年比 - 24.5%と7ヶ月ぶりの大幅減となったが、一時的なものと見込まれる。
- ・生産、輸出ともに均してみると横ばい圏で推移している。先行きについては持ち直しを見込むが、米中貿易戦争の動向に留意が必要。

1. 景気全般 ~ 緩やかに持ち直している (先行き: 持ち直し)

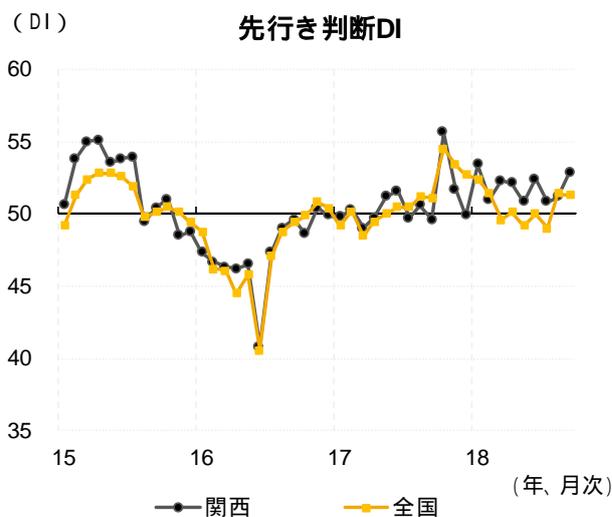
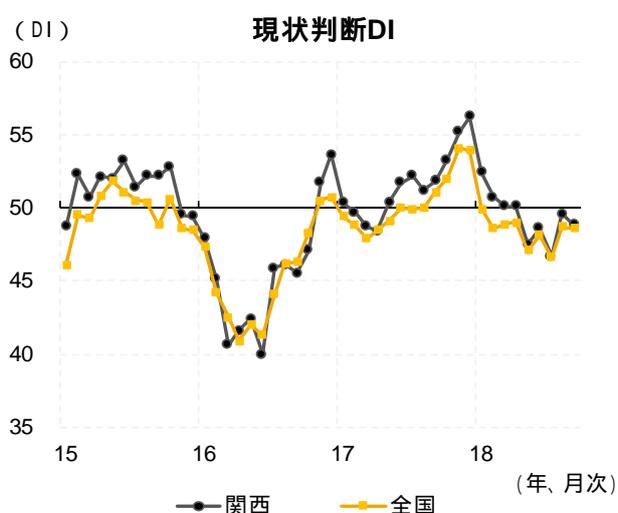
7月の関西の**景気動向指数・CI一致指数**は、所定外労働時間数(製造業)、百貨店販売額、生産財出荷指数、耐久消費財出荷指数、鉱工業生産指数がマイナスに寄与し前月差 - 3.4ポイントの123.4と3ヶ月連続で低下した。



(出所) 内閣府「景気動向指数」、大阪府「近畿地区景気動向指数の動き」

(注) 近畿景気動向指数の採用系列は、鉱工業生産、耐久消費財出荷、生産財出荷、有効求人倍率、百貨店販売額、輸入通関額、所定外労働時間(製造業)の7系列

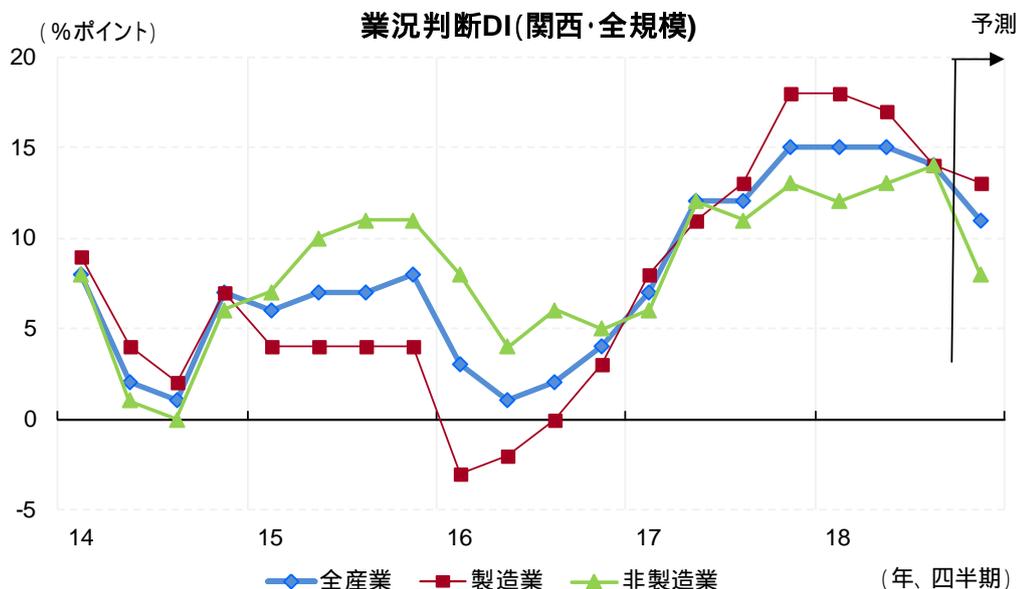
景気ウォッチャー調査によると、9月の関西の**現状判断DI**(季節調整値)は前月差 - 0.8ポイントの48.8と2ヶ月ぶりに低下した。**先行き判断DI**(季節調整値)は、同 + 1.7ポイントの52.9と2ヶ月連続で上昇した。



(注) DIは季節調整値

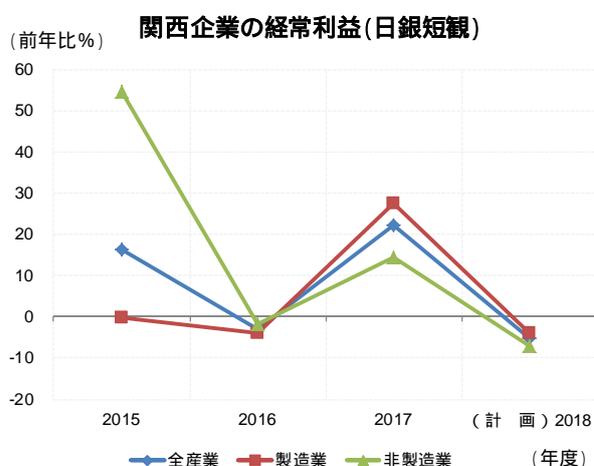
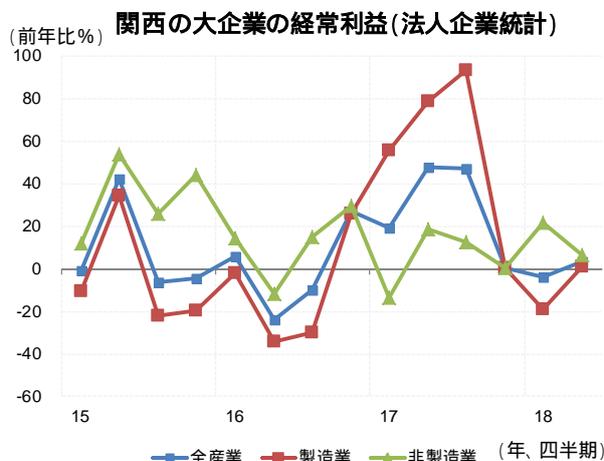
(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

関西企業の景況感について**日銀短観9月調査**を見ると、**業況判断DI**は全産業(全規模)で+14と前回6月調査より1ポイント悪化した。非製造業(全規模)は+14と1ポイント改善したが、製造業(全規模)は+14と6月調査より3ポイント悪化した。先行きについては、全産業、製造業、非製造業共に悪化が見込まれている。



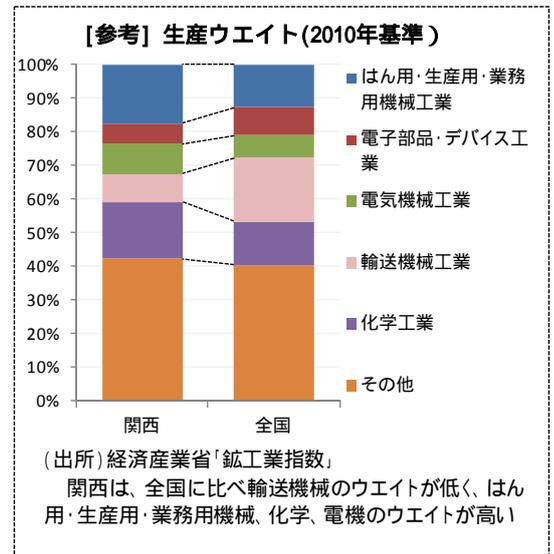
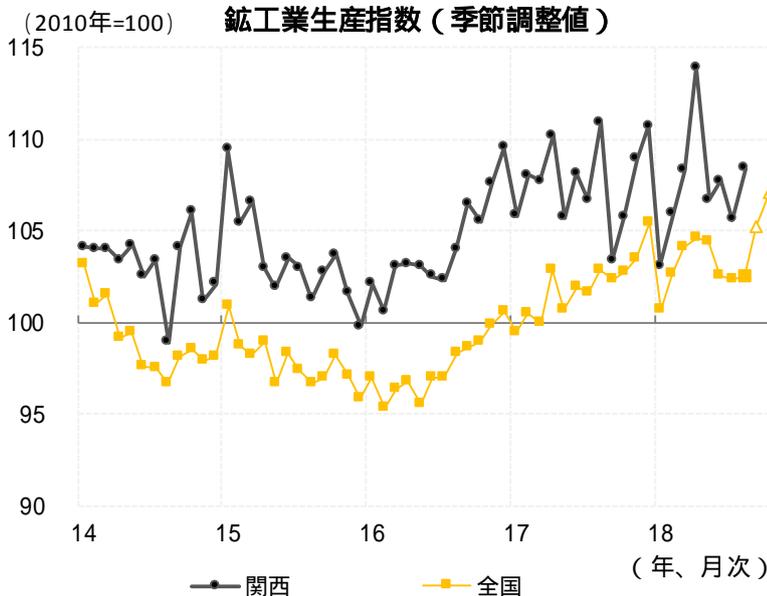
関西企業の収益動向について**法人企業統計**を見ると、2018年4~6月期の大企業の**経常利益**(全産業)は、前年比+3.5%と2四半期ぶりに増加した。製造業が同+1.2%と2四半期ぶりに増加し、非製造業も同+6.6%と5四半期連続で増加した。**日銀短観9月調査**では、18年度は全産業で同-5.1%、製造業で同-3.9%、非製造業で同-7.0%と計画されている。

(法人季報については前号から変更なし)

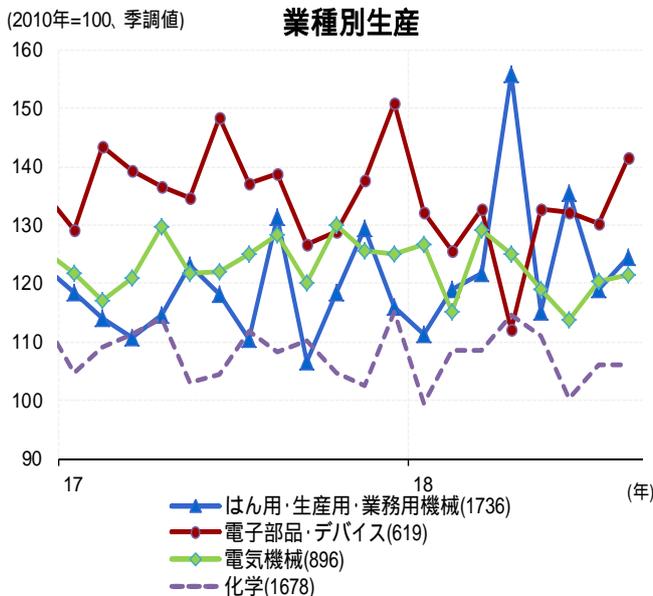


2. 生産 ~ 横ばい圏で推移している (先行き: 緩やかに持ち直し)

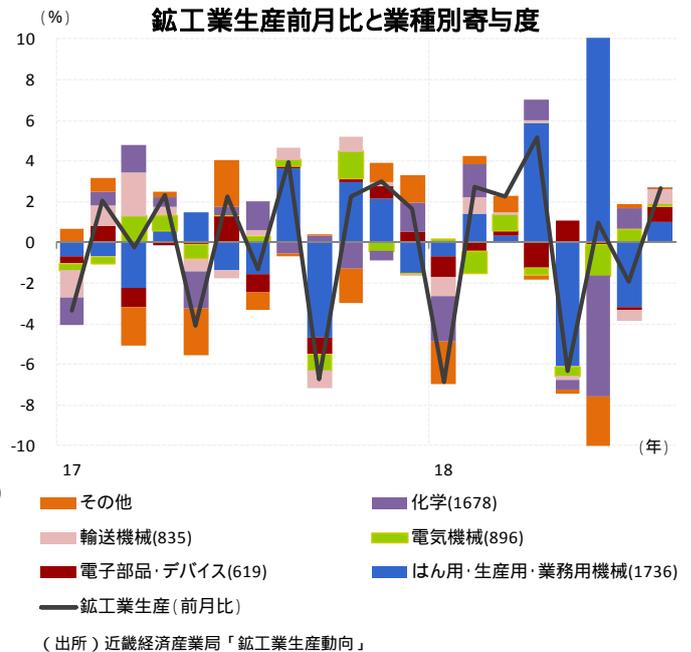
8月の関西の**鉱工業生産**は、前月比+2.7%と2ヶ月ぶりに増加した。金属製品、情報通信機械などが減少したが、はん用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイス、輸送機械(除航空機・鋼船・鉄道車両)などが増加した。近畿地区の生産は均して見ると横ばい圏で推移している。



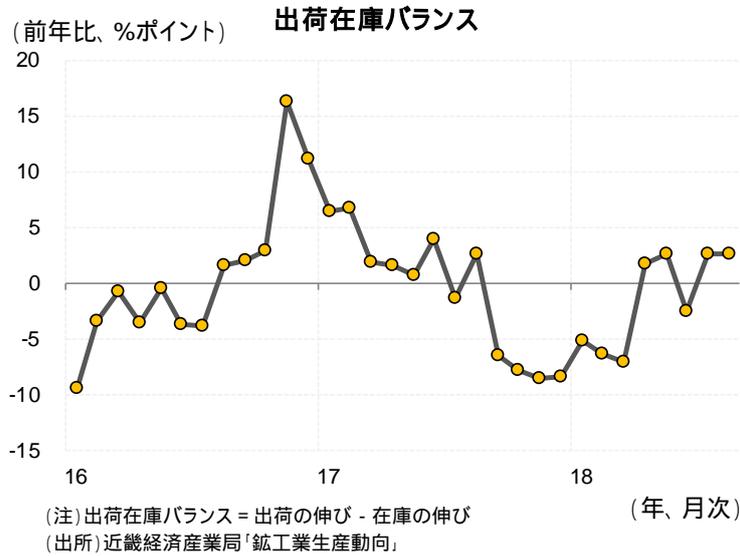
(注) 生産(全国)の「▲」は製造工業生産予測調査結果に基づく予測。
(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」



(注) 凡例の括弧内の数字は付加価値ウエイト(鉱工業=10,000)
(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

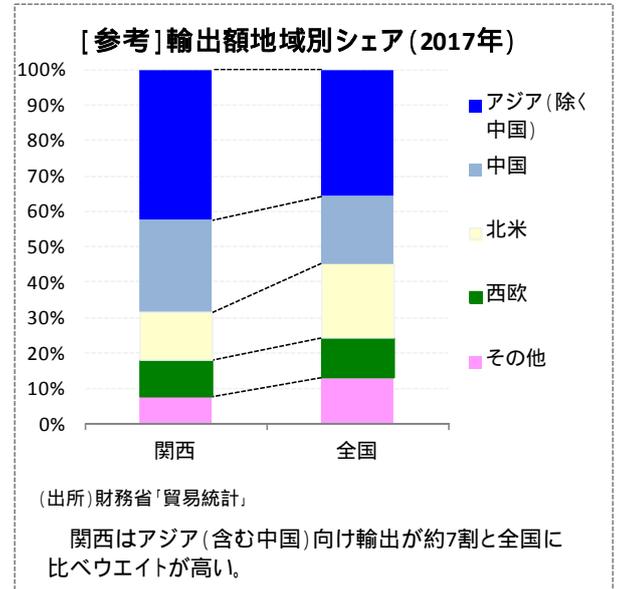
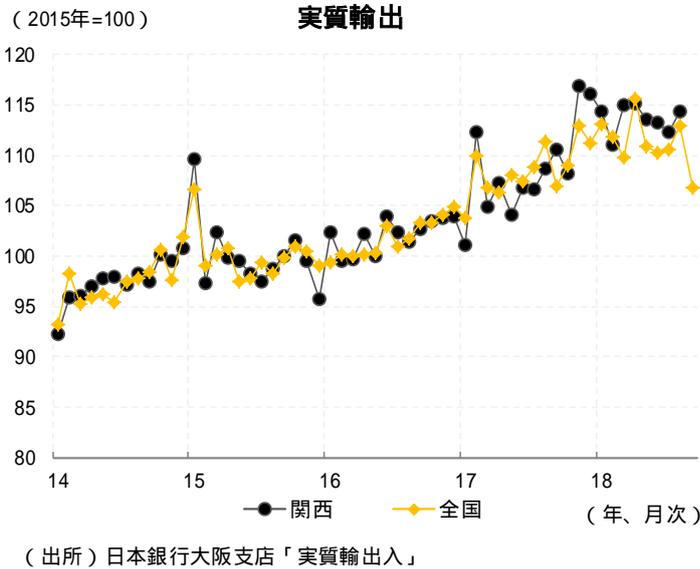


出荷の伸びから在庫の伸びを引いた**出荷在庫バランス**(出荷の伸び - 在庫の伸び)は、8月は出荷が増加した一方、在庫が減少したことから、2ヶ月連続でプラス圏となった。

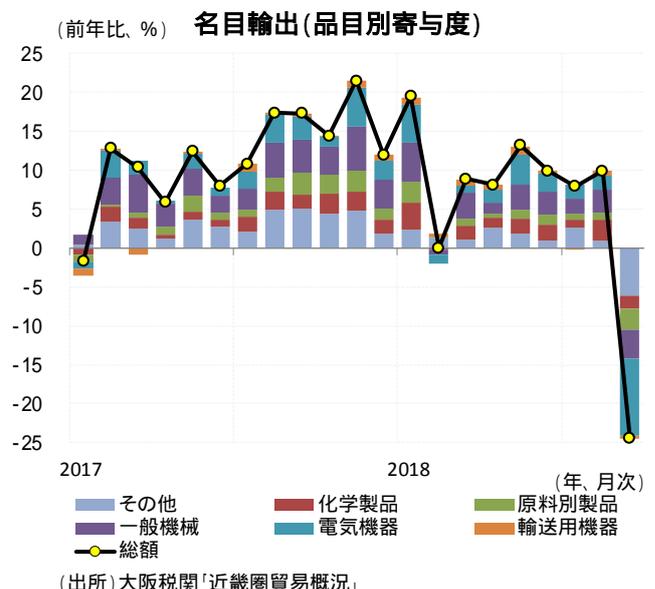
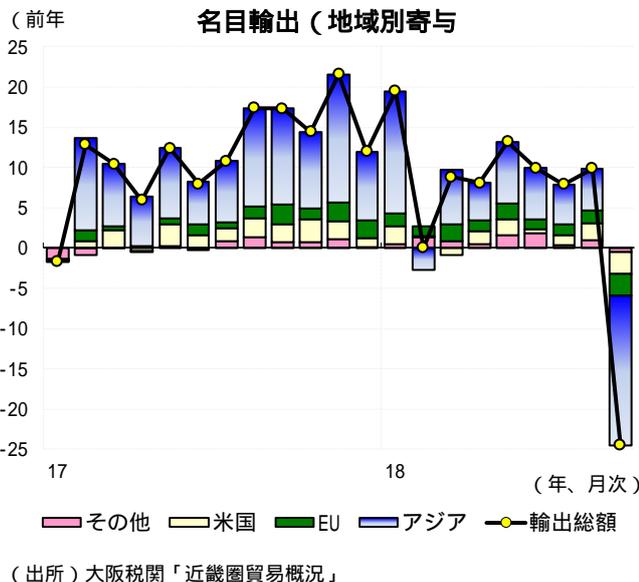


3. 輸出入 ~ 輸出、輸入とも横ばい(先行き: 輸出は増加基調、輸入は横ばい)

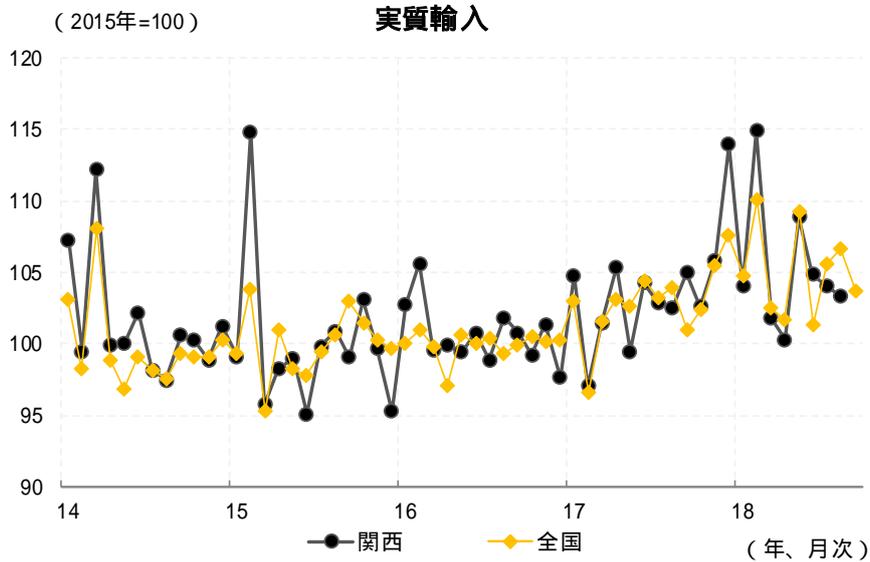
8月の関西の実質輸出は前月比+1.9%と4ヶ月ぶりに増加した。均して見ると横ばいとなっている。



9月の名目輸出額は台風21号被害による関空閉鎖の影響で、前年比-24.5%と7ヶ月ぶりの大幅減となった。地域別では、ほぼ全国・地域的に前年水準を下回ったが、なかでもアジアのマイナス寄与が大きかった。品目別でも、主要品目はいずれも減少に転じたが、特に電気機器(同-32.9%)、一般機械(同-17.0%)のマイナス寄与が大きかった。



8月の関西の**実質輸入**は前月比 - 0.7%と3ヶ月連続で減少したが、均して見ると横ばいとなっている。



(出所) 日本銀行大阪支店「実質輸出入」

4. 設備投資 ~ 増加している (先行き: 増加)

法人企業統計によると2018年4~6月期の関西の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は前年同期比+18.2%と7四半期連続で増加した。季節調整値(MURC試算)の動きを見ても、足下で増加している。

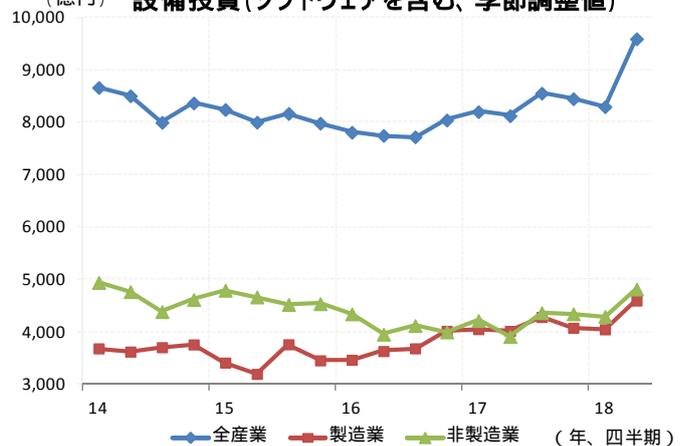
(コメント・グラフともに前号から変更なし)

設備投資の前年比伸び率(全産業、%)

	関西	全国
17年 4-6月	4.2	1.5
7-9月	11.3	4.2
10-12月	5.3	4.3
18年 1-3月	0.9	3.4
4-6月	18.2	12.8

(出所)財務省「法人企業統計調査」

(億円) 設備投資(ソフトウェアを含む、季節調整値)

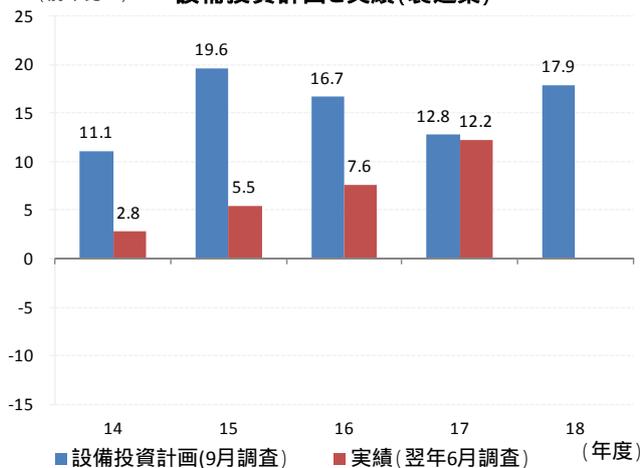


(注)季調はMURC

(出所)財務省「法人企業統計調査」

日銀短観9月調査によると、関西の18年度の設備投資計画は、全産業で前年比+18.8%(6月調査同+17.2%)と増加が見込まれている。業種別の内訳を見ると、製造業は同+17.9%(同+17.3%)、非製造業は同+19.4%(同+17.2%)となっている。

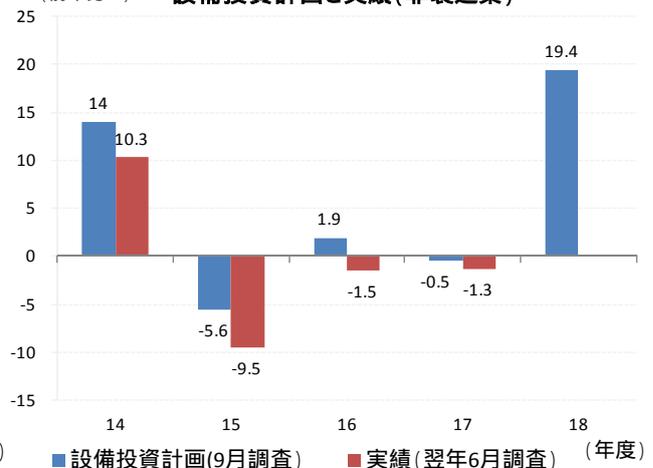
(前年比%) 設備投資計画と実績(製造業)



(注)設備投資は含む土地投資額

(出所)日本銀行大阪支店「短観」

(前年比%) 設備投資計画と実績(非製造業)



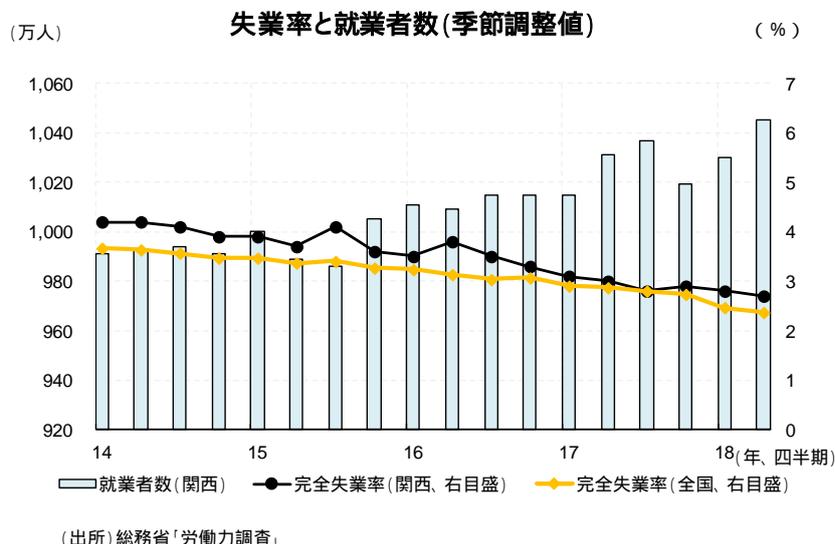
(注)設備投資は含む土地投資額

(出所)日本銀行大阪支店「短観」

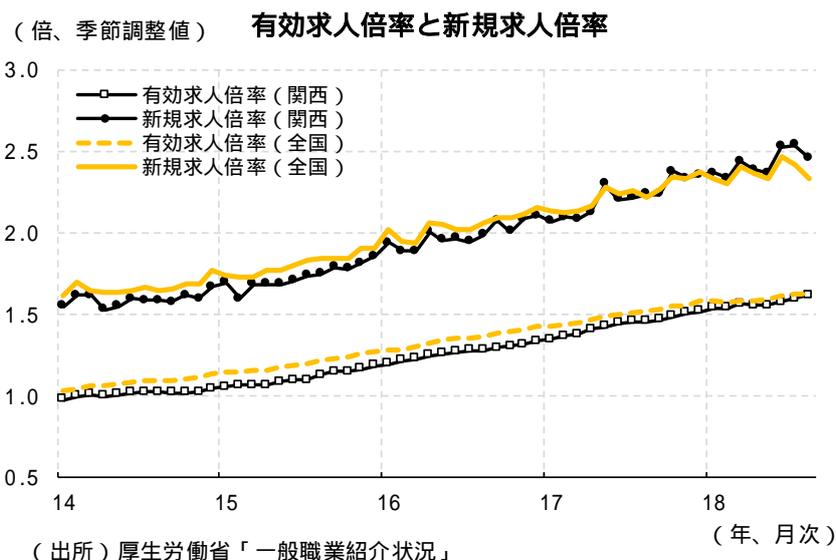
5. 雇用 ~ 改善している (先行き: 改善)

4-6月期の関西の**完全失業率**(季節調整値)は前期差 - 0.1%ポイントの2.7%となった。**就業者数**(季節調整値)は同15万人増加し、完全失業者数(季節調整値)は同1万人減少した。

(コメント・グラフともに前号から変更なし)

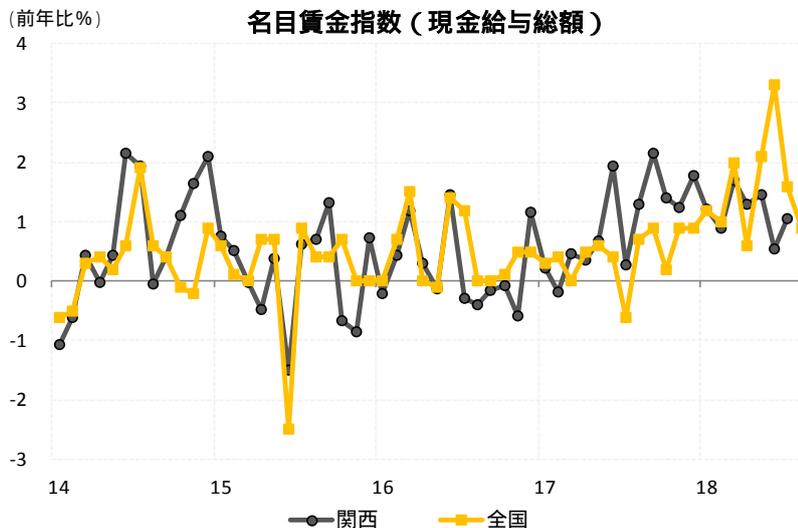


8月の関西の**有効求人倍率**は1.62倍と3ヶ月連続で上昇した。**有効求人数**は前月比 + 1.2%と増加し、有効求職者数は同 - 0.3%と減少した。有効求人倍率に先行する**新規求人倍率**は2.46倍と3ヶ月ぶりに低下した。新規求人数は前月同水準、新規求職申込件数は同 + 3.4%と増加した。



6. 賃金 ~ 緩やかに持ち直している (先行き: 緩やかに持ち直し)

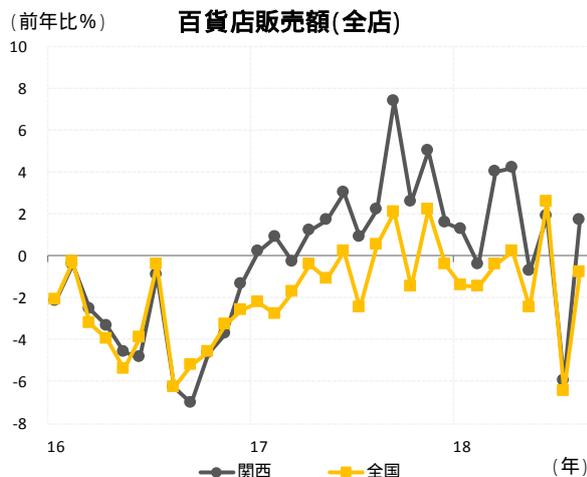
7月の関西の**名目賃金指数(現金給与総額)**(MURC試算)は、前年比+1.0%となっている。



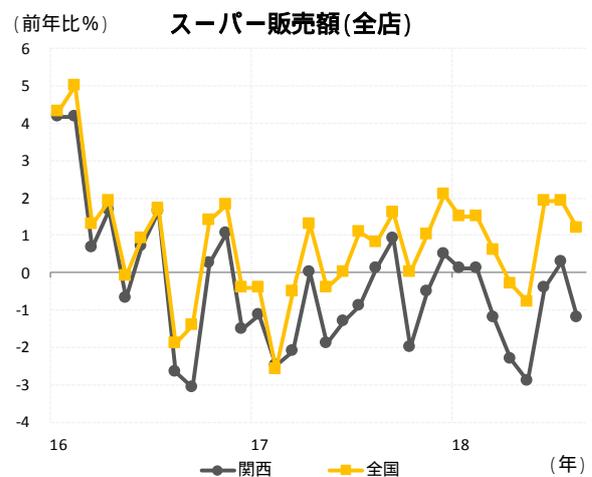
(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算 (年、月次)
(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

7. 個人消費 ~ 持ち直しの動きが見られる (先行き: 緩やかに持ち直し)

8月の関西の**百貨店販売額(全店)**は、前年比+1.7%と2ヶ月ぶりに増加した。高額消費やインバウンドが業績を押し上げた。一方、**スーパー販売額(全店)**は同-1.2%と2ヶ月ぶりに減少した。休日が1日少なかったことや台風20号による天候要因がマイナスに働いた。

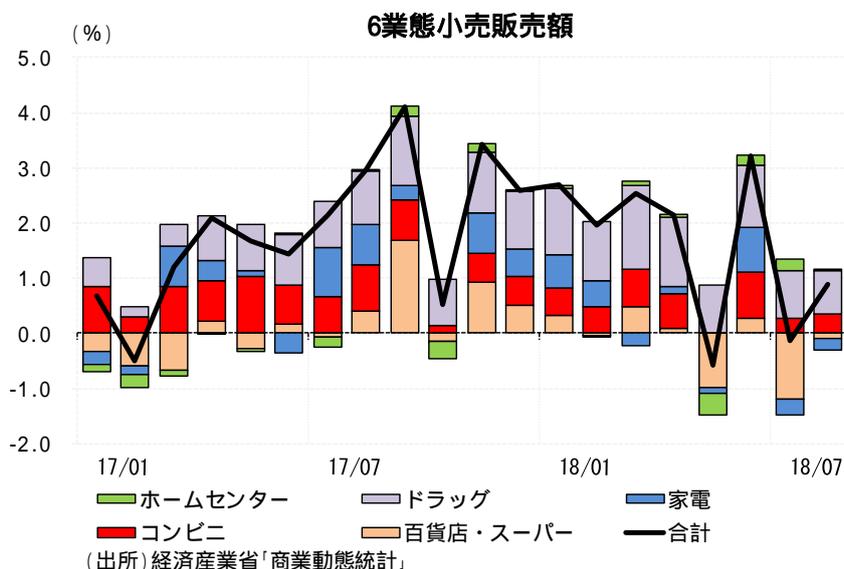


(出所) 経済産業省「商業動態統計」

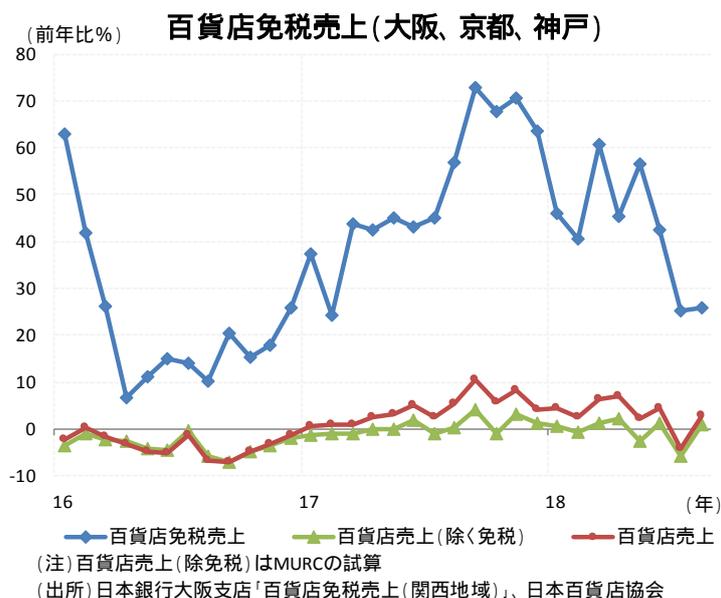


(出所) 経済産業省「商業動態統計」

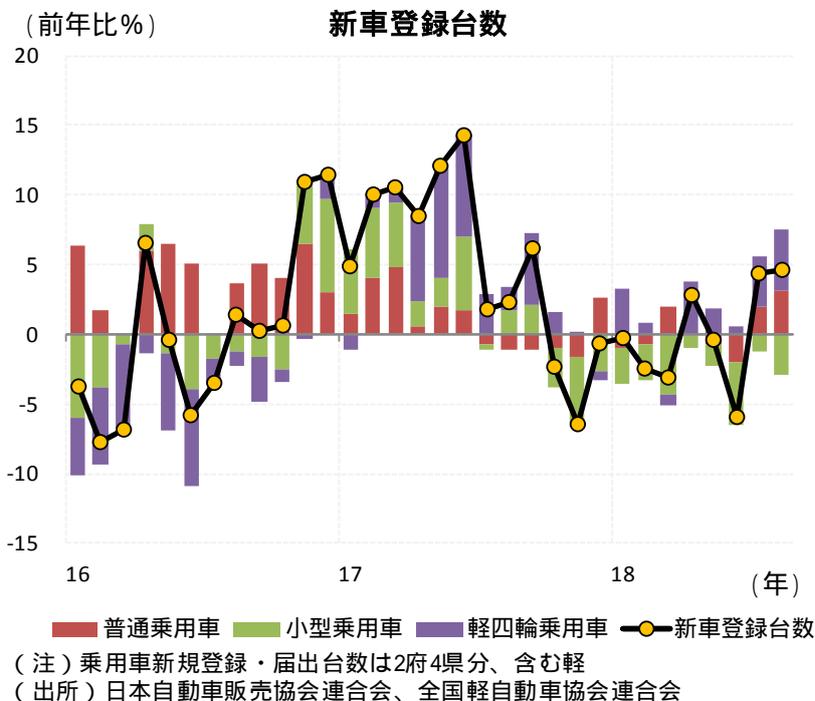
8月の商業動態統計調査 6業態の販売額の合計は、ドラッグストア、コンビニがプラスに寄与し、前年比+0.9%と2ヶ月ぶりに増加した。



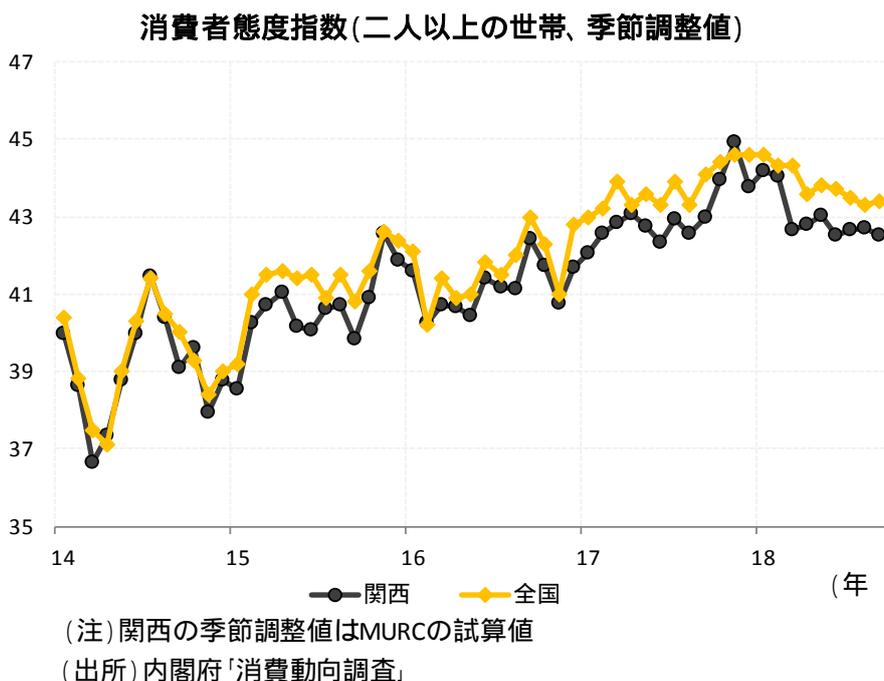
8月の百貨店免税売上(大阪、京都、神戸)は、前年比+25.7%と大幅な増加が続いている(同月の免税売上比率は10.8%)。百貨店売上から免税店分を除いた国内向け売上(MURC試算)は、同+0.9%と2ヶ月ぶりに増加した。百貨店売上げ全体では、同+2.8%と2ヶ月ぶりに増加した。



8月の関西の**新車登録台数(乗用車、含む軽)**は前年比+4.6%と2ヶ月連続で増加した。小型車(同-9.3%)は11ヶ月連続で減少したが、普通車(同+8.3%)は2ヶ月連続で、軽自動車(同+14.3%)が5ヶ月連続で増加した。

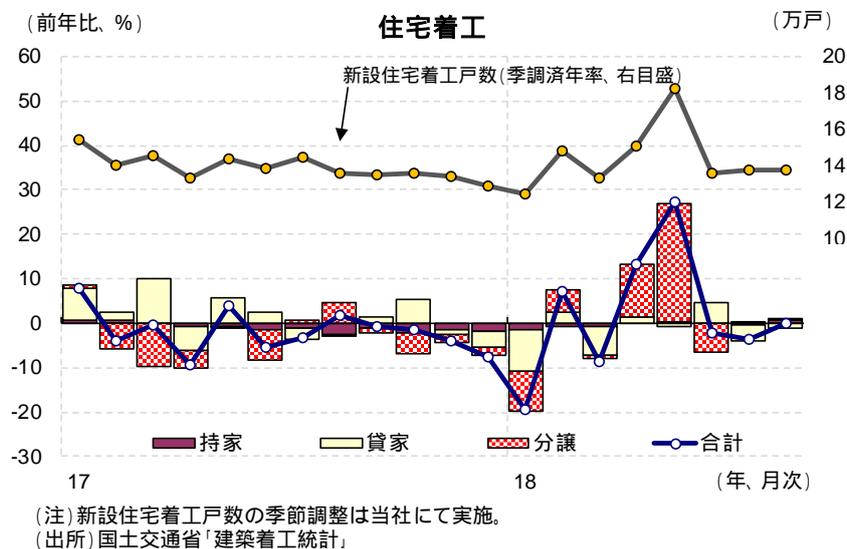


消費者マインドを表す**消費者態度指数(季節調整値: MURC試算)**は、昨年12月をピークに弱い動きが続いている。



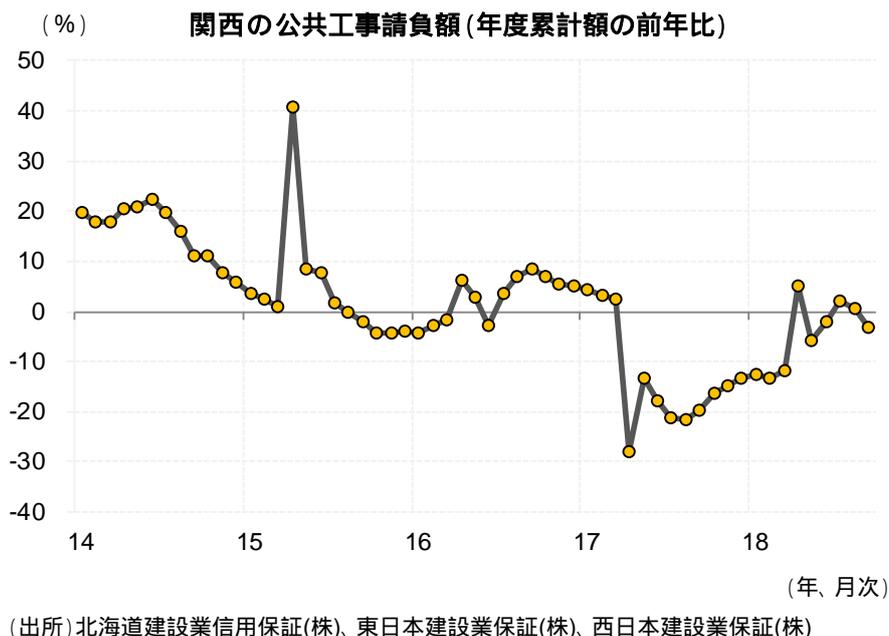
8. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移している (先行き: 弱含み)

8月の関西の住宅着工戸数は、季調済年率(MURC試算)で13.7万戸と2ヶ月ぶりに減少した。また、原数値の前年比では - 0.2%の11,768戸と3ヶ月連続で減少した。



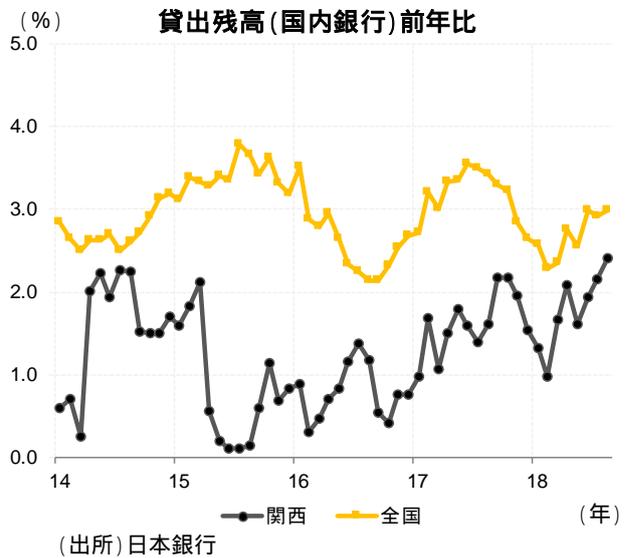
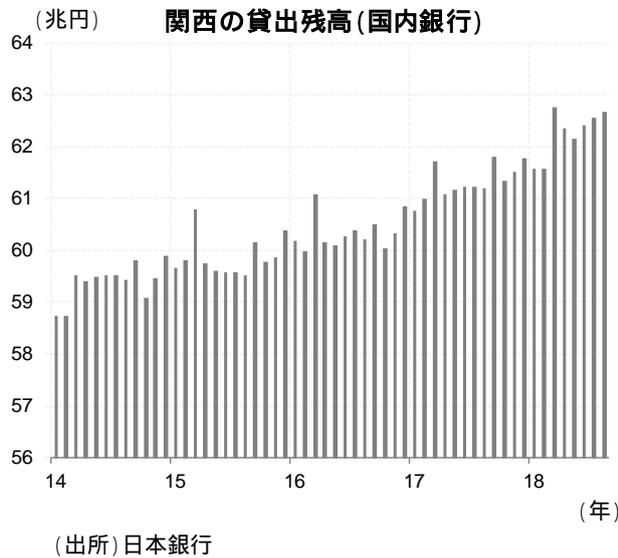
9. 公共投資 ~ 横ばい圏で推移している (先行き: 横ばい圏)

9月の関西の公共工事請負額(年度累計額)は、前年比 - 3.1%と3ヶ月ぶりに減少した。また、9月単月でも前年比 - 21.6%の1,093億円と2ヶ月連続で減少した。関西の公共投資は、均して見ると横ばい圏で推移している。



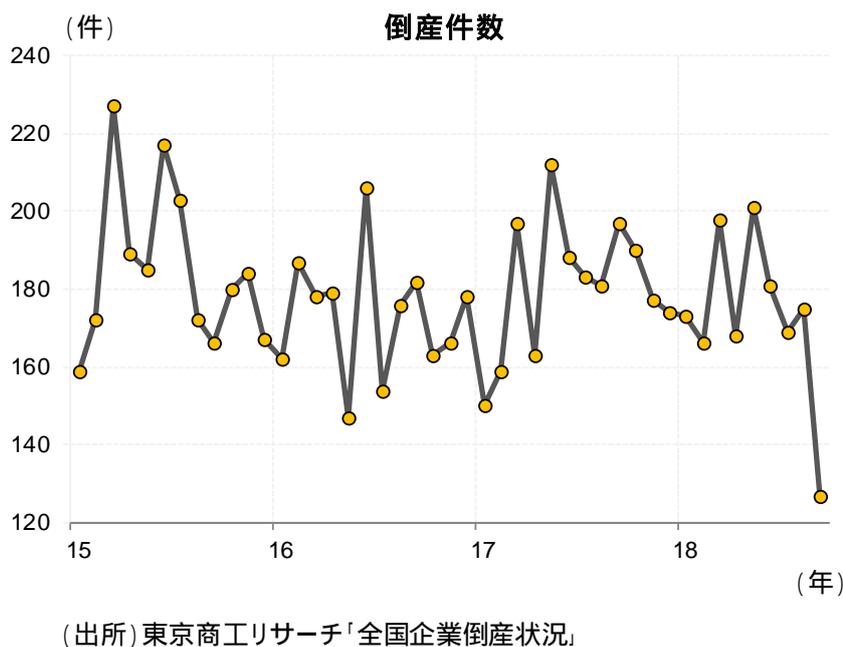
10. 貸出 ~ 貸出は増加

関西の8月の**貸出残高**(国内銀行ベース)は、同+2.4%の62.7兆円となった。日銀大阪支店では「企業向けや住宅ローンの増加などを背景に」貸出が増加しているとみている。



11. 倒産 ~ 倒産件数は前年比で減少

9月の関西の**倒産件数**は、前年比 - 35.5%の127件(前年同月197件)と35ヶ月連続で減少した。また、倒産企業の負債総額は同 - 46.5%の76億円と、2ヶ月ぶりに減少した。



- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください。